

◆実践問題8◆

今は昔、身いとわろくて過ぐす女ありけり。時々

くる男きたりけるに、雨に降りこめられてゐたる

に、「いかにして物を食はせむ」と思ひ嘆けど、す

べき方もなし。日も暮れ方になりぬ。いとほしく

いみじくて、わが頼みたてまつりたる観音、助け

たまへ」と思ふほどに、わが親のありし世に使は

れし女従者、いときよげなる食物を持て来たり。

は、よろこびに取らすべき物のなかりけ

れば、小さやかなる紅き小袴を持ちたりけるを、

に、我も食ひ、人にもよくよく食はせ

て、寝にけり。

暁に男はいでていぬ。つとめて持仏堂にて、観

1回目
2回目
3回目
4回目
5回目

音持ちたてまつりたりけるを、見たてまつらむ

とて、帳立て、据ゑまゐらせたりけるを、帷子引き

あけて見まゐらす。この女に取らせし小袴、仏の

御肩にうち掛けておはしますに、いとあさまし。

昨日取らせし袴なり。あはれにあさましく、おぼ

えなくて持て来たりし物は、この仏の御しわざな

りけり。